

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

地域の現状として、起伏の多い地域であり地域ケアプラザに気軽に通うのも高齢者にとっては難しいところがあります。また、地域包括ケアシステムの構築については初期段階にあります。
 今後の方向性として、従来どおり積極的に地域に出向き、顔の見える関係作りを引き続き行います。また学校関係者等との連携を深め、生徒や保護者にも地域ケアプラザの周知を図ったり、広報誌や事業のチラシの配布場所を拡充します。地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域関係者や区役所・区社協・介護保険事業所などの繋がりを強め推進を図ります。

今年度の重点的な取組

新規

継続

—具体的な取組内容—

ボランティア活動の場づくりを行う。施設内では季節の飾りつけ(端午の節句、紅葉、クリスマス等)をボランティアに依頼する。また年末大掃除も、可能な範囲でボランティアに参加して頂く。施設外については区社協等から情報収集し、活動の受け皿を開拓できるよう働きかける。

5月末にウォーキング&ごみ拾い大会、8月に近隣薬局の薬剤師を講師に招き地域住民向けに薬にまつわるミニ講座を実施。7月には岡村公園、下半期に岡村西公園で草むしり等の地域貢献をしながら健康づくりができる(ウォーキング等のロコモ予防の内容)教室を共催で実施する。

丸山台ハイツの地域ケア会議で買物支援の必要性と不安の声が出たのを機に、地域ニーズの再確認を促し区役所・区社協等と必要に応じて、会議・協議体を開催し、買い物困難者の課題解決の取組みを行う。

泉谷地区での住み開きに付き、区社協とも協力をしながら開設に向け支援を行っている事。開設した場には泉谷地域高齢者が新たな担い手として活動できるように支援していく。

今年度は岡村地区にて個別ケース地域ケア会議を予定。岡村地区は、「認知症」「独居」「ガン末期」「8050問題」等の相談が多い。個別ケースを取り巻く自治会関係者や民生委員等の地域の福祉関係者・薬剤師等の医療関係者に参加していただき、会議後も相談できるような顔を見える関係の一助とする。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

コロナ禍ではありましたが各担当者が知恵を絞り、感染症拡大時は予定した事業日程を変更するなど工夫して開催したり概ね取り組むことができました。今年度の取り組みが達成に至らなかったことについては、次年度への課題としオンライン形式やハイブリッド形式などの導入により予定通り事業を実施する方法も検討していきたい。また、地域資源の開発等についてはどういう手法と内容でニーズを把握するか綿密な打ち合わせを関係機関と情報共有しながら実施していきたい。

区からのコメント

・今年もコロナによる施設及び職員への影響も多々あり、事業や取組に苦労されたことと思われます。その中でも、工夫を凝らして様々な取組を実施し、地域の方々と協力している姿もみられました。また、多くの様々な困難ケースの対応から得た地域ニーズを捉えた介護予防やネットワークづくりの取組は目を見張るものがありました。特色が異なる連合町内会を2地区担当しており、地福計画の地区別計画の推進についても求められる内容が異なる部分もあるかと思いますが、新たな取組や動きも続々と出てきているので、状況を把握し積極的にしっかり支援していただくようお願いいたします。
 ・今年度は介護予防の人材育成に力を入れ、積極的な取組をされていました。特に花笑みの会の活動は、磯子区内のグループ支援にもかかわりを広げています。次年度は介護予防サポーターをさらに増やしていくことができるよう、引き続き支援をお願いします。